オプス・デイ属人区 長マドリードを訪問

午前11時ごろ、オカリス師は、幅広い教育や教員の若さ、学力の評価において高レベルであるフエンヤナ校(生徒約1,500名)に到着しました。属人区長は、その教育水準を保ち、教育の取り組みに関わっている目指しての人々の社会進出を目指しているように励ました。さらに、「常に家族を優先する」ことを勧め、教員たちが繰り広げている仕事に感謝しました。

その後、アルコルコン市で12年の歴史と830名の生徒を抱えるアンデル校を訪れました。運営委員会や教育委員会、保護者会の責任者や支援団体の幹部らに歓迎されました。教師たちに挨拶し、その仕事に感謝し、彼らのプロフェッショナルなパフォーマンスを成長させ続けるように願いました。

写真アルバムークリック

アンデルの生徒で、中三を終わったがりのイグナシオ君は学校の保護を受けた。「君は学校のをできませた。」を生徒たちなは、でででは、な生徒だのでは、を生徒だのでは、をないでは、なり、ないのでは、一年をしたができました。とを対しているとをがいるとをがいるとができました。

教皇様のためのより多くの祈り

属人区長はまた、<u>聖ホセマリア教会</u> (ヘタフェ教区の小教区教会)を訪れ、使徒ペトロと使徒パウロの日に あたり、特に教皇フランシスコのた めに祈りました。「彼はその肩の上に全教会と全世界の重量を担っているのです」と述べました。

良い普通のキリスト者であるように 多くの照らしを得られるために、聖 ホセマリアの著作を読み深めるよう 参加者たちに勧めました。要理の勉 強(カテケーシス)の継続性につい て尋ねられ、私たちが理解しやすい 方法で福音をすべての人に説明 るために、聖霊の助けを求めること だと提案しました。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/fernando-ocariz-madrid-homon/(2025/11/20)